

会 議 報 告 書

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会 議 名	平成 25 年度 第 4 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 25 年 11 月 28 日 (木) 14 時 00 分～17 時 15 分
開催場所	益田市匹見総合支所 大会議室
出席者	・ 匹見地域協議会委員 (8 名) ・ 匹見総合支所：長谷川支所長 住民福祉課：靱田課長、三嶋 地域づくり推進課：村上課長 建設課：露口課長

【報告事項】

(1) 新市建設計画の進捗状況について<資料 1 住民福祉課長より説明>

・新市建設計画以降の実施計画において、匹見地域の事業が現在どのように位置づけられ、取り組みが行われているかを説明。また、これからこの資料をもとに今後どう事業展開していくかを協議していただく旨説明。

《質疑・意見》

●今後のスケジュールはどうなるのか？また、具体的に何をしたらいいのか？

▷市全体が半年くらいかけて作業することになっている。地域協議会でも次回以降それぞれご意見をいただきたい。事業の要不要や新たな事業提案等でも何でも構わない。

●今言えるものもある。一つ一つ上げるときりがないが、例えば農林水産加工施設（道川に建設する計画。現在ゼロ査定）。新聞報道で美都のゆず加工場の予算化があった。農協の施設だと思うが、なぜ道川はまだ予算化されないのに美都のゆずは予算化されるのか？

●交流の里事業も止まったまま。地域協議会の働きが悪いというなら直談判でもするが。

▷中山間総合整備事業の中の県事業負担金事業として含まれている。柿原の圃場整備終了後に交流事業に転換する予定で進んでいる。

●何でもかんでも匹見は置いてけぼりにされている気がする。どういう段取りが一番いいか考えてほしい。

●計画がどう進んでいるかが分かってよかった。皆の意見を持ち寄って時代に見合ったものを。

(2) ドクターヘリ臨時離着陸場整備事業について<資料 2 住民福祉課長より説明>

・要望を受け、澄川に建設予定のドクターヘリ臨時離着陸場は 12 月補正予算に計上している。

《質疑》

●管理は？

▷市がやる。

●平時においてグランドゴルフ場にするなどして開放する予定はないのか？

▷県の補助事業で実施するため、用途外利用はない。

(3) 益田市匹見地域振興補助金について<資料3 地域づくり推進課長より説明>

- ・今年度から公募制を開始し、3回審査会を行い、すでに3団体に助成している。
- ・第4回目も12月に予定しており、3件申請があるところ。

<質疑>

●匹見峡温泉に設置する舞台はどのように管理するのか？

▷ 観光協会が管理する。ウッドデッキになっており、分解もでき、様々な利用形態が可能。

●太鼓購入助成をしているが、あれほど貢献してくれている今福優さんに対してはしないのか？

▷ 本人から申請があれば検討できるが、今のところ本人からは何もない。

●財源は？

▷ 過疎債ソフト事業。

(4) 町民温泉利用割引事業等について<資料4 地域づくり推進課長より説明>

- ・合併調整項目として残っている課題。合併後10年間（平成27年3月31日）で廃止する調整方針が示され、今後料金設定について、条例で定める範囲内において指定管理者と協議をし決定していく。
- ・美都のやすらぎ対策事業（70歳以上及び身障者1~4級の方100円引き）は継続とする。
- ・割引事業による不足分（温泉利用分720万円、旅館分48万円）は指定管理料に含んでいる。

<質疑>

●600円が300円になっていたのが600円になると入浴者数が減る。そうすると温泉経営そのものの危機になるのでは。町全体のことを考えると心配。減少分を指定管理料で増額するなどできるのか。

▷ 26年度中に27年度以降の指定管理のあり方について、指定管理料も含めて協議をする予定。その中で料金設定についても、町民、市民の方々に広く利用される形を指定管理者とともに検討していきたい。

●健康センターとして町民が安く健康管理ができる目的で整備している。実際利用は近辺住民に限られているかもしれないが、温泉は匹見の観光の核でもある。集客力を落とさないためには料金は変えない方がいいと思っている。ただ、10年間は据え置いたので、27年度以降はそのまは無理ということであれば、何か方法を考えないと温泉が潰れてしまわないか危惧している。

▷ 美都温泉も同時期に更新となる。美都は運営に伴う経費と収入を差引して指定管理料として設定している。そうした考え方を取り入れることも含め、組み立てをしていきたいと考えている。

●美都のやり方でいくなら、決算書を見ればだいたい計算できるのでは。そうすると今よりは増えると思う。今のような市の財政状況の中指定管理料を増やすことになるのか心配している。どうなるのか今時点でも試算は可能なはず。次くらいまでには提示してもらいたい。

▷ すでに株ひきみと協議を進め、資料を作成している段階。これまでは予算枠内での要求であったが、やはり必要なものは必要でいうことで組み立てし、主張していきたいと考えている。ちなみに、現時点美都と匹見ではほぼ同額程度になるという想定。

●美都と匹見じゃ規模が違う。敷地の広さや施設の大きさ。それが同額程度となるとかなり無理させる気がする。要るものは要る。そうした組み立てをしてほしい。

▷ いつまでも温泉を利用できるようにしたいと考え、第3セクターである株ひきみの運営体系含め、いろいろな角度から整理している。料金設定の枠組みを検討する際には、どこまで歩み寄られるかなどぎりぎりの話を、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと考えている。概ね来年10月頃までには整理をしたい。

●美都とは距離的にも条件が違う。石見交通とも協議がいるのでは。

▷ 長沢2号トンネル開通によりまた益田匹見間が近くなる。そうしたことも踏まえてPRを展開している。最近では新聞折り込みなども新しく始めたりしている。

- 今ほんとうに正念場。指定管理料もかなり厳しいとは思いますが、不足分は補填するような交渉を。
 - ▷ 早めに組み立てを行い、協議会でも提示し意見を集約したいと思う。後押しをお願いしたい。
- 数字を見ればいかに町民が利用しているかは一目瞭然。今の割引がなくなることによる影響の大きさは計り知れない。そこは交渉の大きな材料になる。ひとつ、よろしくをお願いしたい。

(5) 平成 25 年度益田市共同研究事業について<資料 5 地域づくり推進課長より説明>

- ・今年度より始まった県立大学との包括協定による共同研究事業のうち、3つのテーマで匹見が関わって研究されている。
- ・大学生が多数現地入りし、体験しながら提言してもらうことになる。
- ・研究成果は3月までに報告がされる。26年度以降も新しいテーマを見つけながら継続する見通し。

《質疑》 なし

(6) 平成 25 年度道路維持安定化事業（除雪車購入）について<資料 6 建設課長より説明>

- ・当初4トン級3台購入予定だったが、検討の結果8トン級1台、4トン級1台となった。
- ・8トン級については市の備品購入手続き上総合評価方式となり、8月に入札をしたところ不調に終わった。4トン級は落札業者が決定している。
- ・よって、今年度は24年度と同様に10台体制（市保有5台、業者借上げ3台、リース2台）で対応する。

《質疑》

- なぜ総合評価方式を採用したのか。
 - ▷ 備品購入1,000万以上は総合評価方式となる内規があるため。市では前例がなく、また除雪車は特殊機械であり時間を要する結果となった。
- 財源は？
 - ▷ 過疎債。
- なぜ1業者からも提出がなかったのか？
 - ▷ 納期の設定ではないかと思っている。総合評価方式では、納期に間に合わないことが評価を落とすことにつながるため。
- では、来年は早めに入札をかけなくてはいけないのでは？
 - ▷ 26年度は早急に事務を進め、間に合わせたい。皆さんにはご心配をおかけして申し訳ない。
- 来年度の除雪車購入予定は？
 - ▷ 今年度不調に終わった8トン級1台のみ。
- 除雪は匹見にとっては必要不可欠。住民の不便にならないよう取り組んでもらいたい。除雪対応できる業者も減り、体力も亡くなってきている。オペレーターの数もある程度必要だが、将来展望はどのように考えているのか？
 - ▷ 機械については、市・県含めて責任を持って整理をしていく必要がある。人材の確保あるが、委託体制そのもののあり方についても検討していきたい。市・県の管理区域をなくし、匹見地域という括りで除雪を考え、また業者においても除雪に係る除雪組合等を組織するなどという方向性も考えていきたい。

(7) その他「匹見地域道路整備促進期成同盟会島根県要望について」<追加資料 建設課長より説明>

- ・10月17日に同盟会設立総会を開催し、発足した。
- ・11月13日には益田県土整備事務所、14日には島根県庁にて要望活動を実施してきた。

《質疑》

- 国道488号の江田付近の来年度からの見通しは？
 - ▷ 測量が済んで、今後地権者との現地立会を含めて現地説明に入る。その後、発注という流れ。早ければ26年度の終わり、27年度の初めには工事に入るのでは。

【協議事項】

(1) 匹見地域斎場利用料の補助金交付事業等の廃止について<資料7 住民福祉課長より説明>

- ・旧匹見町から実施していた火葬助成について、合併により市外扱いから市内扱いになり、火葬料金も旧町時代に比べ安くなったこと、道路改良の進展、匹見地域内での葬儀数の減少により対象者が限定されていること等々を踏まえて、廃止してはどうか。
- ・マイクロバスについては条例に定めがない利用になるため本年度すでに利用を見合わせている。
- ・実施時期は平成26年4月1日からを考えている。予算計上は毎年45万円。

《質疑》

- 益田と匹見は条件が違う。廃止はすべきでない。ただ料金については、長沢までの料金分が減るのは許容範囲。長沢から奥部にかかる経費をなくすことは反対。
 - ▷ 車台については、県の規定によると10キロ以内が21,796円。それ以降10キロ毎に5,699円上がる計算。仮計算で行くと匹見中心部で38,893円程度になる見込み。
- であれば、3万8千から2万1千を差し引いた残りを補助金として出せばいい。物事には段階がある。
 - ▷ 段階的にとのご意見を受け、26年度中に方向性を検討することとしたい。26年度については継続ということで予算要求もしており、現行を維持する。
- バスは法的に問題がある利用であれば中止もやむを得ない。
 - ▷ これについては2月の自治会長会議で周知を図ることとしたい。

【意見交換会】

福祉タクシーについて

- その後の検討状況は？
 - ▷ 人口拡大計画に伴う事業展開の中で何らかの補助制度はないだろうかと模索中。全体の市の計画の中に入らない部分については匹見独自の取り組みということも視野に入れ、また皆さんにご意見を伺いながら検討していきたい。
- 車を市で用意して貸与することはできないのか。
 - ▷ 直営は可能。ただし、そうすると福祉利用に限定され、通常営業ができなくなる。だから、直営も完全ゼロではないにしても、事業者のやる気をどう支援していくか検討している。
- 高齢者は車を運転できない。タクシーは行政が責任を持ってやるべき。
 - ▷ 福祉タクシー制度の充実はきちんと対応していきたい。もう少し練っていい案が出たら再度皆さんへご報告させていただきたい。

産業祭での送迎タクシーについて

- 周辺部からの参加が少なくなってきたと感じる。バスを出せばいいのでは。
 - ▷ 今回も検討したが、バス2台ということで断念した。ただ、来年度に向けての課題として認識しており、温泉を巻き込みながら、温泉バスを活用できないかということで検討していきたい。

合併特例債に関する市長見解について

- 市長と語り合う会に参加した際、当初合併協議会の中で確認した内容と変わってきているのでは、という違和感があった。人も代わり、当時のいきさつを知るものが減って行く中、なし崩し的になっていくのではという不安を持っている。今から10年後どうなるか…。だから、今、匹見地域協議会としての考えをきちんと市長なり本庁に上げていく必要があるのでは。諮問するなり何なりの今後の対応を取るべきだと感じている。

- 基金事業の認識の違いは質すべき。
- 3等分は精神論は精神論でええ、しかし事業が必要であればそこにお金をつぎ込むべき。たとえばタウンホールでいえば、益田と美都には立派な文化会館があるが匹見にはない。匹見はどんどん置いてけぼりになっている。
- 益田の人は認識を深めるべき。旧益田と旧匹見は同じ300㎡の面積があり、そのうち匹見には町有林がある。これから何十年も先にお金を生むのこれらであり、それが意味を理解すべき。
- ぜひこの協議だけで終わらず、次につながる協議にして頂きたい。

⇒ 来年で合併10周年を迎える。今いろいろな課題が出てきて、合併特例債が5年延長したこともあり、匹見にとって何が一番いいのか、考える時期にきている。次回、皆様のご意見をもっともっとお聞きしたいと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。